

事業報告書

(平成30年度)

社会福祉法人 相模翔優会

特別養護老人ホーム ル・リアンふかみ

<目 次>

はじめに	3
1 理事会・評議員会開催状況	4
2 特別養護老人ホーム	6
（1）利用者の状況とサービスの提供	6
（2）介護サービス課 総括	8
（3）各ユニット報告	8
（4）短期入所生活介護	13
（5）利用者の健康状況	15
（6）サービスの質の向上	17
ア 相談課報告	17
イ 機能訓練	18
ウ 食事の状況	18
3 委員会報告	19
（1）安全衛生委員会	19
（2）介護サービス委員会	19
ア 食事・栄養	19
イ 排泄	20
ウ 入浴	20
エ 感染症・褥瘡予防	21
（3）人権擁護	21
（4）総務委員会	23
ア 防災	23
イ 物品	24
（5）施設活動委員会	25
ア 研修	25
イ 行事企画	30
ウ ボランティア活動	31
4 職員関係	31
（1）職種別配置構成	31
（2）資格取得構成	31
（3）実習・見学・講師派遣	32

は じ め に

平成30年度は、運営経費面ではリース契約の終了など経費の一部軽減化が進みました。しかし前年からの課題であった派遣職員の直接雇用化を進める作業が年度後半となつてしまい、9月以降に派遣職員の直接雇用への契約切り替えを進める結果となり、委託料等の削減ができない事態となりました。また、平成30年4月時点の派遣契約者10名から、平成30年10月末3名、平成31年3月末0名へ契約解除を進めうち6名の職員を派遣から直接雇用いたしました。また紹介による職員雇用もあり紹介料の発生による一時的な経費増加がみられました。退職職員の補充のための採用などによる経費増加も課題となった年でもありました。次年度は職員の勤務等の見直しを進めていくことで、業務負担及び均等化した勤務見直しを進めていかななくてはなりません。平成31年度は働き方改革が本格的始動となる年でもありますので、改善が急務となります。

介護サービス分野では、介護課、相談課、看護課の各課を統合し施設課とし、一元化したサービス提供に改善いたしました。しかし、苦情や不適切な介護報告は減少傾向になりましたが、軽微な介護事故の報告やご利用者の骨折事故等が減少化していない現状がありました。介護事故防止については外部機関である神奈川県介護福祉士会の第三者評価調査の受審をうけ、発展的サービスで原因不明の骨折事故防止を取り上げました。防止対策は次年度継続事業となります。

また、介護サービス情報公表事業調査では、職員の研修体制低下の指摘および介護サービスの施設内自己評価が不完全であること、記録体制の不備の指摘がありましたが、第三者評価及び介護サービス公表事業の結果が職員の改善への気づきとなるなど効果があった年度でもありました。また平成31年初頭に施設内にインフルエンザが発生しご利用者並びにご家族に多大なるご迷惑をおかけいたしました。次年度は感染対策の徹底も重点目標となります。

平成31年度事業計画（平成31年度計画）では、上記の反省点を踏まえ改善先を示しております。今年度特に収支の改善と安定した事業運営と職員の定着率の確保と教育を第一に進めてまいります。また、2020年には法人開設10年目を迎える節目の年になりますが、3年計画の作成と推進を進めより安定した施設運営に心がけてまいります。

平成31年4月1日

特別養護老人ホーム ル・リアンふかみ
施設長 小泉 昇

1 理事会・評議員会報告

理事会

(1) 理事会開催状況

理事6名 監事2名

回	開催年月日	出席者数	承認・決議事項
1	平成30年6月2日	理事5名	第1号議案 ・平成29年度事業報告について ・決算報告について ・監事監査報告について 第2号議案 施設入口門設置について その他 ・機械浴槽リース期間満了及び修理代について ・運営状況について
2	平成30年11月29日	理事6名	第1号議案 理事長辞任について 第2号議案 新理事長選出について 第3号議案 ・次回理事会・評議員会開催予定について ・運営状況について
3	平成31年1月24日	理事6名	第1号議案 第1次補正予算について 第2号議案 次年度借入金について 第3号議案 前理事長の呼称について 審議事項 ・役員報酬規程の改正 ・運営状況について
4	平成31年3月18日	理事6名	第1号議案 平成31年度事業計画について 第2号議案 平成31年度予算について 第3号議案 ・次回理事会日程について

			・ 運営状況について
--	--	--	------------

評議員会

(2) 評議員会開催状況

評議員 7 名

回	開催年月日	出席者数	承認・決議事項
1	平成30年6月10日	評議員 7 名 理事 1 名	第 1 号議案 ・ 平成 2 9 年度事業報告について ・ 平成 2 9 年度決算について ・ 監事監査について
2	平成 3 1 年 1 月 3 1 日	評議員 4 名 理事 1 名	第 1 号議案 次年度借入金について 第 2 号議案 前理事長の呼称について 第 3 号議案 役員報酬規程の改正について 審議事項 定義評議員会の日程調整について

2 特別養護老人ホーム

(1) 利用者の状況とサービスの提供

ア 要介護度別

平成31年3月31日現在

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計(人)
男	0	0	4	6	1	11
女	1	1	22	31	18	73
計	1	1	26	37	19	84

イ 要介護度別延人数(平成30年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
要介護2	6	4	4	4	4	4	4	3	3	2	2	1	41
要介護3	23	23	24	22	23	23	23	23	23	24	25	27	283
要介護4	34	34	35	36	37	36	37	38	38	38	35	35	413
要介護5	22	21	20	20	18	19	23	24	23	22	22	21	255
計	87	84	85	84	84	84	89	90	89	88	86	86	1036

ウ 年齢別

平成31年3月31日現在

	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～	計(人)
男性	0	0	3	2	2	4	11
女性	0	2	4	13	25	29	73
計	0	2	7	15	27	33	84

※平均年齢88.0歳 最高年齢107歳

エ 入所前状況(平成30年度)

	男	女	計(人)	備考
在宅	7	33	80	
グループホーム	0	8	8	
小規模多機能施設	0	0	0	
有料老人ホーム	1	13	14	
高齢者専用賃貸住宅	0	0	0	
老人保健施設	1	15	16	
病院	1	3	4	

計	10	72	82	
---	----	----	----	--

オ 要介護度別新規入所者数（平成30年度）

	性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護3	男性	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
要介護4	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	女性	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
要介護5	男性	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	女性	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	4
合計		1	0	2	1	0	1	4	1	0	1	0	2	16

カ 退所理由（平成30年度）

	死亡（看取り介護）	長期入院	他施設入居	計
男性	2	2	0	4
女性	9	4	1	14
合計	11	6	1	18

キ 待機者状況

平成31年3月31日現在

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男性	3	7	13	27	9	59
女性	2	2	43	29	20	96
合計	5	9	56	56	29	155

ク 面会状況（平成30年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計（人）
面会者数	358	474	385	399	331	357	2304
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計（人）
面会者数	444	409	421	282	348	479	2383

年間合計5187人（月平均432.3人）

(2) 介護担当 総括

今年度は介護職員を安定されるべく、派遣職員を正規職員への切り替えなど行い、職員の定着安定を目指しましたが、職員の教育に中心となっていくべく、課長、リーダーの離職などが続き、サービスの質の低下の防止するかに注力してしまい、全てが後手に回り、サービスの本質に目を向けることが十分ではありませんでした。そのような中でも利用者本位にとの気持ちを持ち尽力してくれた職員がいることは感謝すべきことであり、令和初年度に向けて、施設の希望になる職員が多くいることから、効率的に人材を配置し、職員の定着率とサービスの向上を目指します。

また、施設として重点を置いている人権擁護の意識を研修・教育に重きを置き、努力していきたいと考えております。

<施設行事>

7月7日	七夕
7月13日	居酒屋
8月4日	夏祭り
9月17日	敬老会
10月28日	バザー
11月19日	居酒屋
11月21日	お寿司屋
12月21～23日	ゆず湯
12月23日	クリスマス
12月28日	餅つき
1月1～2日	初詣
1月3日	お囃子、獅子舞
2月3日	節分
3月2～4日	ひな祭り

(3) 各ユニット報告

<1階青ユニット>

平成30年度目標	・ ご利用者のADLに沿った介助の提供に努めます。 ・ ご利用者やご家族のご意見、要望に応えられるよう努力していきます。 ・ レクリエーション等で日常生活に変化をつけていけるように努めます。
----------	---

取り組み評価	・ユニット職員と話し合い、ADLに沿った介助方法の統一ができました。統一することによって内出血を減らすことができました。 ・ご利用者やご家族との会話から要望を聞き出来る範囲で対応することができました。 ・ユニット内で誕生日がある月はレクリエーションを実施しました。
反省点と要因	・ユニット会議が不定期開催になってしまった。ユニット会議の議事録を他ユニットに回すが統一出来ない事もありました。 ・ご家族が職員に伝え辛い状況がありました。
次年度課題	・ユニット会議やフロア会議を定期的に開催し、介助の統一を図ります。 ・毎月レクリエーションの日を作り、誕生会を実施します。
行事	4月誕生会・5月母の日・6月誕生会・7月ボーリング大会・8月夏祭り、誕生会・9月誕生会・10月焼き芋レク・11月たこ焼きレク・12月クリスマス会・1月獅子舞・2月誕生会・3月誕生会

<1階緑ユニット>

平成30年度目標	ご利用者の声を聴き、その「思い」に寄り添い、気づき、大切に介護サービスを提供致します。
取り組み評価	・ご利用者の一日一日の状態を観察し、その方にあった一日を提供することができました。食事、排泄介助の時間等ご利用者に合わせた介助が行えました。 ・ユニット会議を行い、職員とご利用者について共有意識を持ち、一定の介助が行えた。 ・居室担当の意識を持ち、ご利用者の状態の把握ができました。
反省点と要因	・緑ユニットからの発信が茜・青の職員に徹底できず、ご利用者に介助サービスにばらつきがありました。 ・ユニット会議も不定期になってしまいました。 ・レクリエーションが定期的におこなえませんでした。
次年度課題	・ご利用者の声を聴き、アセスメントをもとにした根拠に基づいたケアを提供します。 ・四季に応じた誕生日会など、ご利用者の個人にあわせた行事を行い、ご利用者の笑顔を大切にします。
行事	4月誕生会・5月母の日・いちご狩り・6月誕生会・7月ボーリング大会・8月夏祭り、誕生会・11月たこ焼きレク・12月クリスマス会・1月獅子舞・2月誕生会・3月誕生会

<1階茜ユニット>

平成30年度目標	・ご利用者に安心して暮らせるよう環境や介護職員の技術向上を図ります。 ・レクリエーション等ご利用者の日常生活に変化をつけるように努めます。
----------	--

取り組み評価	・ 居室担当による各居室の衣類や物品の整理整頓。ユニット会議を開催し、介助に対する疑問や不安など議題に取り入れ介助方法の統一や再検討など職員間で話し合い介助方法の統一を図ることができました。 ・ 四季折々のレクリエーションの企画・発案によりさまざまなレクリエーションを実施しました。
反省点と要因	・ ユニット会議を一定の頻度で開催できず、課題点の改善など行えるまでの期間に間が空いてしまいました。 ・ 大きな恒例行事でのレクリエーションは実施できていたが、毎月の誕生日や日々のアクティビティなどにおいては実施が不十分でした。
次年度課題	・ ご利用者の状態の変化に伴い都度アセスメントを行い、それに基づいた個別ケアを提供します。 ・ 研修などに積極的に参加し、そのなかで得た情報や知識などを職員間で情報共有し職員のスキルアップを図ります。
行事	4月誕生会・5月母の日・いちご狩り・6月誕生会・7月ボーリング大会・8月夏祭り、誕生会・11月たこ焼きレク・12月クリスマス会・1月獅子舞・2月誕生会・3月誕生会

<2階青ユニット>

平成30年度目標	・ ご利用者が安心して日々過ごして頂けるよう適切な介護サービスを提供します。 ・ ご利用者又ご家族様への接遇を意識した対応をおこないます。
取り組み評価	・ 職員の入れ替わりがあり統一したケアが出来ていなかった事がありましたが、出来る範囲のご利用者様の要望などに応える事が出来ました。 ・ ご利用者、又ご家族からクレームがあがってしまいましたが、その反省を改め職員一同接遇をより一層意識し対応することができました。
反省点と要因	・ 職員の入れ替わりがありユニット会議など行えず職員間の情報共有が疎かになり統一したケアが出来ませんでした。 ・ ご利用者様の気持ちを汲むことができず思いやりの介助を疎かにしてしまいクレームがあがってしまいました。
次年度課題	・ ユニット会議を開催し情報の共有や伝達を行う。又、会議以外にも情報の共有など行えるよう工夫し統一したケアに努めます。 ・ アクティビティやレクリエーションの頻度を増やし、ご利用者様の楽しみが少しでも多く増やします。
行事	・ 8月夏祭り ・ 12月クリスマス会

<2階紫ユニット>

平成30年度目標	・ ご利用者やご家様に対し適切な接遇をし信頼関係を深めるよういたします ・ ケアの質を高めご利用者が安全にまた安心して過ごせるよう支援します。 ・ 外部・内部の研修に積極的に参加し職員の技術向上に努めます。
取り組み評価	・ 内部研修等を通し声掛け行い方、どのような声掛けが適切かなどを理解し対応しました。 ・ ご利用者個々に合わせた介助方法や排泄方法等を日々考え、実行しました。
反省点と要因	・ ユニット会議を行えていない事で、職員間での情報の共有が適切に行えていない状況であり、ケアの方法・考え方に差異が生じ誤った対応を行ってしまうといった場面が見られました。 ・ 新人職員の育成に関して適切に行う事が出来ず、曖昧な対応また理解となっていました。
次年度課題	・ 定期的にユニット会議を開催し入居者の情報・職員考え方等の情報共有を図っていきます。 ・ 入居者様の状態変化に伴いケアカンファレンスを実施。日々の状態、ニーズに合わせたケアの実践します。
行事	・ 8月夏祭り ・ 12月クリスマス会

<2階緑ユニット>

平成30年度目標	・ ご利用者様が安心して生活して頂ける環境作りに努める。 ・ 職員の介護技術の向上に努めます。 ・ 丁寧な接遇を心がけます。
取り組み評価	・ ユニット掲示、装飾に工夫をこらし季節感を感じながら生活していただけるように努めました。 ・ 新しく職員が配属されましたが先任職員がしっかりついて教える事により介護技術の向上につながりました。 ・ 特定のご利用者様より苦言を頂くことがありましたがその都度職員間で話し合い修正していく事により現状はしっかりと行えております。
反省点と要因	・ ユニット内、特に談話室の整理整頓が行えておらず十分にスペースを活用できませんでした。 ・ 利用者様毎にしっかりとしたカンファレンスを行う事が出来ず、より充実した個別ケアをすることが出来ませんでした。
次年度課題	・ 利用者アセスメントをしっかりと行いそれに基づいた個別ケアの充実を図る様にします。 ・ レクリエーションを頻繁に実施します。
行事	・ 8月夏祭り ・ 12月クリスマスパーティー ・ その他風船バレー、散歩、折り紙による掲示物作りを実施

<2階茜ユニット>

平成30年度目標	日々の業務の効率化・業務環境の改善を図るとともに介護技術の向上に努め、ご利用者に安心して生活して頂ける環境作りに努めます。
取り組み評価	・ 申し送りノート、ホワイトボードの活用により申し送りの効率化を達成、業務環境の改善につなげました。それにより利用者様に対応する時間を増やし介護の質の向上につなげました。 ・ 新しく職員が配属されましたが先任職員がしっかりついて教える事により介護技術の向上につながりました。
反省点と要因	・ 職員間で頻繁にミーティングを行う事は出来たが正式なユニット会議、ケアカンファレンスを行う事があまりできませんでした。特にご利用者ごとのカンファレンスを行う事が出来ず、より充実した個別ケアにつなげる事が出来ませんでした。 ・ 職員の移動が激しく居室担当制をしっかりと行う事が出来ませんでした。
次年度課題	・ 居室担当をしっかりと決めてケアカンファレンスを実施、より充実した個別ケアにつなげます。
行事	・ 8月夏祭り ・ 12月クリスマスパーティー ・ その他風船バレー、散歩、折り紙による掲示物作りを実施。

<3階青ユニット>

平成30年度目標	・ ユニット職員の業務環境を改善し、ご利用者にも職員にもやさしい環境づくりを目指します。
取り組み評価	・ 業務について、定期的にユニット会議を行う事ができた。各職員の意見を聞き、会議で決定をし、業務改善を行いました。 ・ ご利用者について、医務、ケアマネージャー、管理栄養士、ご家族とカンファレンスを開き、課題解決にチームで取組が出来ました。 ・ 季節毎に季節にあったユニットの飾りつけや、レクリレーションを行いました。
反省点と要因	・ ユニット会議が出来ない月もありました。 ・ 会議で決定された事が、実施できていない事がありました。 ・ 一部のご利用者のカンファレンスがおこなえませんでした。 ・ レクリレーションの開催が少なくなっていました。
次年度課題	・ ユニット会議は少なくとも月1回開催を行います。又、職員が全員参加できるようにシフトの調整を行います。 ・ ユニット会議で決定された事が実施できるように、周知徹底をします。 ・ 全員のご利用者のカンファレンスを行います。 ・ レクリレーションの開催を増やします
行事	・ 8月夏まつり ・ 12月クリスマス会

<3階紫ユニット>

平成30年度目標	職員間で十分なコミュニケーションを図り、ご利用者の生活環境の向上を目指します。
取り組み評価	・定期的にユニット会議を開催し、職員間で意見交換ができ、業務改善に活かす事が出来ました。 ・事故カンファレンスをケアマネージャー、医務、機能訓練指導員等と行い、多職種に意見を聞き、問題解決を行うことが出来ました。 ・レクリエーションを開催し、ご利用者とコミュニケーションがとれました。
反省点と要因	・ユニット会議に職員が全員参加できない事もありました。 ・事故カンファレンスを事故後、すぐにできない事がありました。 ・レクリエーションの準備に十分な時間をとることができませんでした。
次年度課題	・ユニット会議は少なくとも、月1回は開催を行います。又職員が全員参加できるように、シフトの調整を行います。 ・事故が起きた時のカンファレンスは、1週間以内に行うようにします。 ・レクリエーションの準備に十分な時間がとれるようなスケジュールをたてます。
行事	・8月夏祭り ・12月クリスマス会

(4) 短期入所生活介護（介護予防短期入所生活介護）

<3階緑・茜ユニット>

平成30年度目標	・年間平均稼働率95%を目標にし、各居宅介護支援事業所や医療機関等との連携を図ります。また医療依存度の高い方の積極的な受け入れ体制も整えつつ、緊急受入れも積極的に行います。
取り組み評価	・在宅生活と同じように支障をきたさないよう、自立支援を念頭にした援助を行うようにできました。 ・ご利用者様が、安心して生活できるように支援できました。
反省点と要因	・忘れ物の件数は前年度に比べ減ってきているものの、依然として無くなりませんでした。荷物チェック表の確認覧を分かりやすく修正し、引き続き忘れ物をなくすことに努めます。 ・ご利用者の尊厳に配慮した声かけが徹底できていませんでした。 ・行事レクが後半出来ませんでした。
次年度課題	・ユニット会議を定期的に開催できるようにして、ご利用者一人一人に寄り添った声掛けや対応など方法を話し合い検討していきます。 ・細かい報告・相談・連絡を徹底し業務が円滑に行えるようにして行きます。
行事	・ケーキバイキング（週1回） ・おやつレク（3か月に1回）

年間延利用日数（短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
要介護 1	男性	7	2	4	3	16	0	9	6	28	14	7	9	105
	女性	26	15	18	12	17	18	17	17	15	7	15	29	206
要介護 2	男性	9	12	0	24	9	13	6	31	35	8	26	26	209
	女性	72	100	92	73	54	83	77	73	87	86	32	45	874
要介護 3	男性	43	60	70	65	61	51	73	83	79	87	73	86	831
	女性	122	152	148	190	213	164	193	213	216	168	187	204	2,170
要介護 4	男性	90	67	123	77	99	86	99	47	52	95	135	146	1,116
	女性	150	114	89	63	71	65	74	39	30	59	60	65	879
要介護 5	男性	31	33	16	20	16	25	22	23	38	43	44	0	331
	女性	53	80	77	85	74	81	71	47	11	21	15	25	640
要支援 1	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
小計	男性	180	174	213	189	201	175	209	190	232	247	295	287	2,592
	女性	423	461	424	423	429	411	432	389	359	344	309	368	4,772
合計		603	635	637	612	630	586	641	579	591	591	604	655	7,364
空所人数		0	0	0	0	0	14	0	21	29	29	0	0	93

新規利用者実人数（短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
男性	2	4	3	7	2	0	2	1	4	5	6	1	37
女性	6	2	1	3	0	23	1	7	1	2	1	2	28
合計	8	6	4	10	2	2	3	8	5	7	7	3	65

(5) 利用者の健康状況

月別入院者数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
男	0	0	1	1	0	0	2名
女	4	4	2	4	1	0	15名
計	4	4	3	5	1	0	17名
区分	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計
男	1	0	1	0	1	0	3名
女	3	2	3	3	3	3	17名
計	4	2	4	3	4	3	20名

入院状況

	性別	入院月日	症・病名	入院日数	再入所日	備 考
1	女	4月3日	肺炎	60日		6月1日療養型へ 転院される
2	女	4月17日	左大腿骨頸部骨折	98日	7月23日	
3	女	4月21日	肺炎	18日	5月8日	
4	女	4月24日	消化器出血	120日		8月21日ご逝去 される
5	女	5月3日	嘔吐・脱水	20日	5月22日	
6	女	5月16日	右大腿骨頸部骨折	85日	8月8日	
7	女	5月21日	肺炎・尿路感染	19日	6月8日	
8	女	5月27日	右大腿骨頸部骨折	32日	6月27日	
9	女	6月3日	右下腿蜂窩織炎	11日	6月13日	
10	男	6月6日	右大腿骨頸部骨折・ 恥骨、坐骨骨折	85日	8月29日	
11	女	7月3日	乳がん手術	6日	7月8日	
12	女	7月7日	左大腿骨頸部骨折	32日	8月7日	
13	女	7月12日	左大腿骨頸部骨折	99日	10月18日	
14	男	4月16日	脳出血	104日		7月29日ご逝去 される
15	女	7月24日	左下腿蜂窩織炎	13日	8月5日	
16	女	8月1日	急性心不全	20日		8月21日ご逝去

						される
17	女	10月2日	シャント造設	12日	10月13日	
18	男	10月16日	抜歯	2日	10月2日	
19	女	10月22日	脳挫傷・脳出血	8日	10月29日	
20	女	10月25日	尿路感染	7日	11月1日	
21	女	11月7日	腎不全	87日		2月1日療養型へ 転院される
22	女	11月14日	腰椎圧迫骨折	36日	12月19日	
23	女	12月4日	治験	4日	12月7日	
24	女	12月21日	尿路感染	18日	1月7日	
25	男	12月30日	S状結腸捻転	9日	1月7日	
26	女	12月31日	脳梗塞	12日	1月11日	
27	女	1月11日	肛門周囲膿瘍	8日	1月18日	
28	女	1月14日	右大腿骨骨折	20日	2月2日	
29	女	1月21日	症候性てんかん	24日	2月13日	
30	女	2月1日	低栄養・左下肢閉塞	30日	3月2日	
31	男	2月5日	老衰	1日	2月6日	
32	女	2月26日	尿路感染	7日	3月4日	
33	女	3月1日	左大腿骨頸部骨折	27日	3月27日	
34	女	3月5日	左大腿骨頸部骨折	35日	4月8日	
35	女	3月18日	てんかん発作			

疾患別

平成31年3月31日現在

No	系	症・病名	男	女	計(人)
1	悪性腫瘍	悪性腫瘍	3	6	9
2	精神・脳神経系	精神疾患	1	7	8
3		認知症	5	35	40
4		パーキンソン病	2	3	5
5	消化器系	便秘	5	37	42
6		胃・十二指腸潰瘍	0	1	1
7		胆石	1	2	3
8	腎臓系	尿路感染	0	6	6
9	心臓・血管系	心疾患・不整脈	0	22	22
10		高血圧	2	38	40
11		脳出血・脳梗塞	5	31	36
12	血液系	貧血	2	11	13
13	自己免疫系	関節リウマチ	0	1	1
14	骨・関節系	骨粗鬆症	0	8	8
15		腰椎圧迫骨折	4	10	14

1 6		変形性膝関節症	0	3	3
1 7		脊髄損傷	1	0	1
1 8		大腿骨頸部骨折	2	1 6	1 8
1 9	内分泌系	糖尿病	2	1 2	1 4
2 0		高脂血症	0	4	4
2 1	感覚器系	白内障	1	4	5
2 2		緑内障	1	3	4
2 3	呼吸器系	肺炎	4	1 0	1 4

(6) サービスの質の向上

ア 相談担当

平成30年度目標	・ 入退所の効率化を行い、社会資源活用を地域の方々へ提供してまいります。 ・ 入居待機者の確保と待機者のショートステイ利用を促していきます。
取り組み評価	今年度の平均稼働率は目標として95%を掲げていましたが、年間通しての稼働率は96.8%（入居92.7%、短期入所100.8%）となりました。ご利用者（入居）の入院や退所後に、短期入所の空床利用の打診を早急に行った結果、利用に繋がりました。結果として、短期入所については目標を大きく上回る結果となりました。今年度は退居から入居までの日数に空きが生じたこと、骨折事故が12件と多発したことにより手術やリハビリに期間を要す日数が増え、入居については目標を達成することができませんでした。
反省点と要因	入院経過中の方の急な死亡退所や施設での看取り死亡などの準備不足があり空所期間の大幅な短縮には繋げることができませんでした。
次年度課題	退居後の入居までの期間短縮に繋がられるよう、次年度は次期入居候補者の選定と入退所判定会議、家族打診を早急に行い、入所判定実施者の確保や待機者への入所時期調査を行い、退所から入居までの期間短縮に繋がります。
次年度の取り組み	・ 病院・老健・居宅介護支援事業所への入居に繋がる活動（営業や短期入所受け入れ等）を行います。 ・ 入所判定会を原則月1回実施していきますが、待機者確保及び状況把握のため必要に応じ随時開催します。 ・ 次期入居候補者を早期選定し、入居待機を進めます。 ・ 他部署連携を深め、医療依存度の高い利用者の受け入れを進めていきます。

イ 機能訓練

平成30年度目標	ご利用者の身体機能の把握に努め、機能低下を最小限に防げる様にします。
取り組み評価	・ 個別機能訓練計画書に沿った生活リハビリを継続して行えています。プログラムの内容について介護職員と相談しながら変更等も実施しています。 ・ 身体状況の把握についても看護・介護職員と随時連携を取りながら実施出来ており、介助方法や車椅子やエアマット等の福祉用具の選定についても多職種での検討がおこなえました。 ・ 運動のご希望があるご利用者が増えてきており、普段接触の無い他フロアのご利用者同士がコミュニケーションを取りながら運動を共にする機会が増えてきています。 ・ クラブ活動については参加ご希望のご利用者も増えています。習字クラブについては月平均10名、お花クラブについては月平均19名のご利用者が継続して参加をされています。参加者のご家族からも、活気が出てきた等喜びの声が聞かれています。
反省点と要因	・ 認知棟フロアについては運動という面では難しい状態が続いていますが、介助方法や福祉用具の検討などは介護職員と連携して随時実施できています。 ・ 個別機能訓練の意義について、介護職員の理解を十分に得る事が出来ていません。職員の入れ替わりがある中、都度説明が必要かと思われます。
次年度課題	ご利用者の生活に沿った個別機能訓練プログラムの立案・実施が出来る様に、介護職員と連携を取りながらADLの把握に努めます。
次年度の取り組み	継続して、それぞれのご利用者のご希望や機能にあった関わりを持ちながら機能訓練を実施します。

ウ 食事の状況

平成31年3月31日現在

主 食	人数	副 食	人数	療 養 食	人数	備 考
米 飯	14	常 食	7	減 塩 食	10	
粥	60	一 口 大	12	貧 血 食	14	
ミキサー粥	11	刻 み	30	脂 質 異 常 食	0	
パ ン		極 刻 み	24	E C 食	2	糖尿病
パ ン 粥		ミキサー	12	腎 臓 食		
計 (人)	85	計 (人)	85	計 (人)	26	
経口維持加算 I				81		

3 委員会報告

ご利用者の生活向上に向けて、各職員が委員会活動を行いました。委員会活動は、委員会ごとの報告としてまとめました。

(1) 安全衛生委員会

平成30年度目標	年間計画に沿って委員会を開催しました。
取り組み評価	・ ストレスチェックの他パワハラメントの研修を実施しました。 ・ 巡回パトロールで環境整備に重点を置き、各居室に温度計を設置しました。
反省点と要因	・ インフルエンザAの罹患職員12名出ました。今までこれほどの感染者が出たことがないので、最初の対応が迅速にいきませんでした。 ・ 3月26日厚木保健福祉事務所大和センターにおいて感染症集団発生におけるヒアリングに参加しました。
次年度課題	感染対策について感染症委員会とも連携を取って取り組んでいきます。
次年度の取り組み	年間計画は前年度と同じ内容で行っていきます。

(2) 介護サービス委員会

ア 食事・栄養担当

平成30年度目標	・ 口から食べることを通して、ご利用者1人ひとりの栄養状態を適正化し、介護予防や生活援助の質の向上に貢献します。 ・ 栄養ケア計画書に基づき、利用者の口から食べる楽しみを支援します。
取り組み評価	・ 行事食については、提出計画どおりに実行することができました。 ・ 7月と3月に昭和大学歯学部教授による回診と研修がありました。利用者様に適した食事の検討や、摂食嚥下についての職員への啓蒙ができたかと思えます。
反省点と要因	・ 報告・連絡・相談の連携がスムーズにいかないことがありました。 ・ 書式や細かな業務の効率化を引き続き検討いたします。
次年度課題	他職種と連携を取りながら、ご利用者のサービスの安定に努め、安心して生活していただけるよう努めます。
次年度の取り組み	毎月、季節の行事食の提案・提供～掲示物等工夫し、認知度を高めていきます。その他、食事・栄養における課題について取り組みます。

イ 排泄担当

平成30年度目標	個々のご利用者に合わせた排泄介助の頻度となっている排泄表の作成します。
取り組み評価	・ 皮膚トラブルに応じた排泄ケアは実施できました。 ・ 利用者のプライバシーに配慮したケアが実施できました。 ・ 年2回の排泄介助研修を実施できました。
反省点と要因	・ 排泄アセスメントの意識が低く、より個別性に意識した排泄介助の実施が今後必要であると考えました。
次年度課題	・ ひとりひとりの状態にあわせた排泄介助をユニットで共有し、統一した方法で介助します。
次年度の取り組み	・ 各ユニットにおいて個々の排泄リズムが考慮された排泄介助の頻度を設定する。 ・ 排泄量に合わせたパットの選定等によるコスト意識の向上を目指します。

ウ 入浴担当

平成30年度目標	・ 入浴介助者と多職種との連携強化に努めます。 ・ 経年劣化した入浴介助物品の入替検討します。 ・ 入浴関連に関して他部署への報告、連絡、相談の意識を向上します。
取り組み評価	・ ゆず湯を実施することにより、入浴時に季節感を感じていただけました。 ・ ご利用者のADLの変化に合わせて迅速に入浴方法を変更できました。 ・ 新しい入浴機器の導入により、ご利用者のADLに合わせた入浴方法にすることができました。
反省点と要因	・ 他職種・ユニット職員との連携が不十分なところがあり、連絡が徹底されていない場面が時折みられていました。
次年度課題	・ ご利用者のADLに合わせた入浴方法・時間を検討します。 ・ ご利用者のプライバシーに配慮したケアをより追求します。 ・ 入浴介助における職員の技術の向上を目指します。
次年度の取り組み	・ 入浴介助に必要な物品の補修・交換の検討します。 ・ 入浴介助者とユニット職員の意見を聞き、ご利用者が満足して頂けるケアを目指します。

エ 感染症・褥瘡予防

平成30年度目標	・ 看護師、機能訓練指導員と共に連携を図り、褥瘡予防のポジショニングなどしっかり行っていきます。 ・ 外部研修に参加して褥瘡、感染の知識、技術向上に努め内外の研修にしっかり取り組んでいきます。
取り組み評価	・ 医務、機能訓練指導員と連携を図り、ご利用者様に見合った体位交換を実施して이었습니다。 ・ 施設での感染症対策のやり方等、資料を用意し統一して이었습니다。
反省点と要因	・ 人員不足もあり研修に参加できない職員もいました。 ・ ご利用者様に合った、体位交換、ポジショニング等、やり方が統一されていなかった事がありました。
次年度課題	・ 看護師、機能訓練指導員と共に連携を図り、褥瘡予防のポジショニングなどをしっかり行っていきます。 ・ 外部研修に参加して、褥瘡、感染の知識、技術向上に努め内部の研修にしっかり取り組んでいきます。
次年度の取り組み	・ 年2回以上の研修の実施。 ・ 感染症対策物品の管理。 ・ 10月～3月の職員の検温実施の継続。 ・ うがい手洗いの徹底。

(3) 人権擁護委員会

平成30年度目標	【苦情解決部門】 ・ ご利用者及びご家族からのご意見やご要望に迅速かつ適切な対応を行い、苦情等への発展にしないように努めます。 ・ 「苦情・相談解決フローチャート」に基づき、適切に対応し苦情の早期解決に努めます。 【事故防止部門】 ・ 発生した事故やヒヤリハットをユニット単位ではなく施設全体で把握し、類似事故の発生を防ぎます。 ・ 身体介助の方法や生活環境の整備をおこないます。 【人権擁護部門】 ご利用者の尊厳を守る支援をおこないます。
取り組み評価	【苦情解決部門】 ・ 今年度挙げられたご意見・苦情については5件で健康管理上の対応、衣類破損、行事対応不備（同時期にまとめて1件）、ご利用者に対しての差し入

れ（１件）、ご利用者対応２件、ご利用者宅敷地内物損（１件）となりました。

- ・ 苦情解決委員会は第三者委員を招き、３度開催しご意見や苦情に対しての報告や助言を受けました。

【事故防止部門】

- ・ 毎月人権擁護委員会内で、各階や各ユニットでの事故傾向や再発防止策の検討を行い該当フロアやユニット以外でも予防策を導入しました。
- ・ 今年度初めに骨折事故が頻発したこともあり、第三者評価受審することができました。発展的サービスについては次年度も継続し骨折事故の予防に努めます。

種類別事故件数														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
転倒	8	4	3	5	1	5	0	1	5	2	2	0	34	12.4%
転落	5	2	2	2	0	2	2	3	2	2	0	2	24	8.7%
外傷	14	15	28	25	12	18	13	15	2	5	11	13	189	81.5%
誤嚥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
誤薬	3	2	1	0	2	1	0	3	2	0	2	0	18	5.8%
異食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.4%
離脱	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	4	1.5%
トラブル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
車両	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
紛失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
盗難	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
自傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
破損	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.4%
その他	3	3	2	1	1	1	2	1	4	4	3	1	28	9.5%
	服薬忘れ2	服薬忘れ9	服薬忘れ2	服薬忘れ1	落薬1	落薬1	落薬1	服薬忘れ1	落薬9	落薬9	落薬1	落薬1		
	薬紛失1						服薬忘れ1		盗食1	服薬忘れ1	誤配1			
											盗食1			

・ 【人権擁護部門】

高齢者虐待防止に関する内部研修を４回に分け、開催することができました。

反省点と要因

【苦情解決部門】

ご意見や苦情を頂いてからの初動が遅く、確認に時間を要し、早期解決とはなりませんでした。しかし、貴重なご意見を頂いた結果、健康管理上の対応については、体調や処置等の対応や状況報告を基本施設看護師がおこなう体制を整えることができました。ご利用者やご家族の立場に立って物事を考えるという点ではまだまだ課題です。

【事故関連部門】

総事故件数は２７５件で種類別事故件数については外傷（内出血や擦過傷等）が１６９件（６１．５％）で大半を占めました。昨年度と比較して２５件減少に至りました。内出血は介助中に発見することが多く、ご利用者は内出血が出来やすいことは否めず、カンファレンス等で原因や予防策を検討し、介助方法の見直しや工夫をしました。行政報告（受診を伴う事故や薬に関する事故）は６５件（市外保険者は重複報告）となりました。骨折事故は１２件となり、１２月１８日に県介護福祉士会による第三者評価を受審しました。発展的サービス評価として、骨折事故減少をテーマとして掲げました。受審後の取り組み

	については今年度では明らかな結果は出ませんでした。 【人権擁護部門】 人権擁護としては委員会発信で全職員にご利用者への対応や尊厳を守るケアを周知できなかった。
次年度課題	【苦情解決部門】 ・ご利用者及びご家族からのご意見やご要望に迅速かつ適切な対応を行い、苦情等への発展にしないように努めます。 ・「苦情・相談解決フローチャート」に基づき、適切に対応し苦情の早期解決に努めます。 【事故関連部門】 骨折などの大きなケガに至る事故の減少に努めます。 【人権擁護部門】 ご利用者の尊厳を守る支援をおこないます。
次年度の取り組み	・人権擁護委員会を毎月開催いたします。 ・事故防止や権利擁護などに関する内部研修の開催と、外部研修参加による内部への伝達を実施します。 ・ご利用者の状況変化や普段の小さな気付き等によるケア方法の検討や工夫について多職種で連携し、ご利用者に対し負担のない介助方法を実施します。事故予防が身体拘束や行動制限、不適切なケアとなっていないか検証をおこないます。 ・「(私たちが) するケア」ではなく、「(自分自身が) 受けたいケア」を考える機会を作り、ご利用者の立場に立った介護をおこないます。 ・苦情に発展する前の希望や要望の時点で対応することにより、苦情への発展に至らないように努めます。

(4) 総務委員会

ア 防災

平成30年度目標	平成29年度と同様に「ル・リアンふかみ」で勤務する全職員に対し総務委員会を通じて「災害」に対する心構えや実践を働きかけていき災害予防に対して意識の向上を目指します。
取り組み評価	・防災訓練を年度内に4回行い、新しい試みとして地震体験の他に火災時における煙にまかれる体験(煙は人体に無害)を参加職員全員に経験してもらい煙の恐さや視界不十分の環境で避難の仕方を学ぶことができました。 ・夜間想定避難訓練では消防本部担当者立会いのもと制限時間内での避難を完了して一定の評価を頂きました。その上で「火災報知機作動時、職員少人数の場合は消防本部の逆信対応よりも避難誘導に全員があたってかまわない。」との助言を頂きました。 ・昨年、8月に正面道路の出入り口に防犯及び河川洪水上の観点から門扉を設置し、夜間は門扉を閉めることになり、少々水であれば門扉外で洪水が遮断可能となり水害予防策として効果となりました。

反省点と要因	平成31年2月の夜勤帯に、ご利用者が急変し救急搬送する事態となりました。夜勤責任者が119番通報にて救急車要請をし、同時進行でフロアの夜勤介護職員が、ご家族に電話連絡をする際に、施設の固定電話で外線電話の使用方法がわからず、とまどってしまう事態が発生してしまいました。その件を重く受け止め、全職員が速やかに緊急車両の通報要請や家族連絡が出来るよう改めて3月28日の「職員防災研修」の中で固定電話器使用方法の研修を実施しました。
次年度課題	昨年度は幸いにも台風や集中豪雨等の洪水による水害の危険性がなく、ご利用者を階上階への避難誘導を行うことはありませんでした。今年度も引き続き天気予報を注視し職員全体で、ご利用者及び職員の「生命と安全安心」を守る行動を取る事が出来るよう研鑽を深め準備をしていきます。
次年度の取り組み	年間を通じて「災害」に対しての意識向上に取り組み、気象に関しては日々情報収集の徹底を行い、地震や台風・集中豪雨に際しては、迅速な避難等の関連行動に対応できる様にまた、関係行政機関と連携を図っていくために日頃から総務委員会を通じて話し合いや研鑽を深めます。

イ 物品

平成30年度目標	・ 毎月、消耗品の棚卸しを実施し不足品の無いように管理します。 ・ リネン室内の保管棚の衛生管理に努めます。 ・ 消耗物品の選定を行うと同時に価格調査も実施し、コストダウンにつなげます。
取り組み評価	洗剤等の消耗品に関しては、新たに低価格での販売業者を取り入れ、単価のコストダウンにつなげることができました。
反省点と要因	洗剤等の消耗品を、一部の職員が数多く保管棚から出庫してしまうことがあり在庫管理に注意を払います。
次年度課題	消耗品の無駄遣いとならないように、数と量を適正に使用してもらうように総務委員を通じて働きかけます。
次年度の取り組み	洗剤等の消耗品の節約を心がけ、より一層安価に仕入れられるよう価格調査を適宜おこないます。

(5) 施設活動委員会

ア 研修

平成30年度目標	・ 内部研修を充実させ、職員全体の援助技術及び技術の向上だけでなく、意識の向上にも取り組みます。 ・ 人権擁護に関わる研修に特に力を入れていきます。 ・ 適宜外部研修にも積極的に参加していきます。
取り組み評価	・ 内部研修の場が少なくなってしまう、十分な研修の提供が出来ませんでした。 ・ 外部研修も計画的ではなく、継続性のないものになってしまいました。
反省点と要因	・ 研修について、検討する場がなく、研修に参加させたい職員の検討も偏ったものになってしまいました。
次年度課題	・ 人権擁護に関わる研修を継続的に実施していきます。 ・ 外部講師を招くことも考慮し、内部研修を充実していきます。 ・ リーダー等、中堅職員を積極的に外部の研修に参加させ、内部研修を行い、職員のスキルアップを目指します。
次年度の取り組み	・ 大和市内高齢者施設研究発表会などに参加し、共通の課題に対して、施設として取り組みます。

平成30年度研修実績

研修種別	研修内容	参加者
職場のマナー 接遇について 平成30年4月12日 講師：杉本 薫	職場のマナー 接遇について	11名

食中毒研修 平成30年5月10日 講師：管理栄養士 井内	食中毒の予防について	14名
食中毒研修 平成30年5月18日 講師：管理栄養士 井内	食中毒の予防について	10名
プライバシーの保護 平成30年7月19日 講師：杉本 薫	プライバシーの保護	9名
高齢者の摂食・嚥下障害について 平成30年7月25日 講師：弘中 祥司 様	昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学口 座口腔衛生学部門教授の弘中祥司先生を講師 に迎え、回診及び研修を実施した ・入居者の摂食状況の指導及び回診 ・摂食、嚥下障害について	44名
高齢者虐待防止・身体拘束禁止 平成30年8月23日 講師：杉本 薫	高齢者虐待防止・身体拘束禁止	6名
感染対応研修 平成30年10月19日 講師：篠崎 宏幸(感染委員会)	・ノロウイルスについて ・汚物処理方法について ・感染症グッズの説明	9名

リーダー研修会 平成30年10月24日 講師：伊藤 久江 様	(社)和心知会理事（元神奈川県社会福祉事業団）の伊藤久江先生を講師に迎え、リーダー職以上を対象にした施設内研修	18名
口腔ケア研修 平成30年12月20日 講師：鹿島様 （雪印ビーンスターク）	・誤嚥性肺炎における口腔ケア ・口腔ケアの目的と意義 ・基本手順 加湿・保湿 など	15名
パワーハラスメント研修 平成31年1月22日 講師：安藤様 神奈川県労働局県央支所	・パワーハラスメントについて	27名
排泄介助研修 平成31年2月13日 講師：クリエイティブカミヤ コンシェルジュ	・排泄介助の基礎動作を研修する	15名
高齢者虐待防止研修 平成31年3月8日 平成31年3月15日 平成31年3月27日 講師：人見伸吾	高齢者虐待について、自己点検シートをもとに解説・検証。	43名
高齢者の摂食・嚥下障害について 平成31年3月13日 講師：弘中 祥司 様	昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学口 座口腔衛生学部門教授の弘中祥司先生を講師 に迎え、回診及び研修を実施した ・入居者の摂食状況の指導及び回診 ・摂食、嚥下障害について	31名

【外部研修】		
特定給食施設等全体講習会 平成30年5月20日 主催：厚木保健福祉事務所 大和センター保健福祉課	・給食施設の衛生管理について ・自分の施設の味噌汁の塩分を知ろう・比べてみよう	井内 澄子
平成30年度厚木保健福祉事務所 大和センター管内病院・介護保険施設・社会福祉施設栄養士連絡会 平成30年6月24日 主催：厚木保健福祉事務所 大和センター 保健福祉課	①医療・介護・福祉間の栄養管理に関する情報共有について ②情報交換	井内 澄子
かながわ高齢者福祉研究会 平成30年7月3日 主催：神奈川社会福祉協議会		深水 貴博 土屋 誠 山本 幸雄
メディケアフーズ展 平成31年1月23日 主催：UBM ジャパン株式会社	・施設及び在宅でのユニバーサルデザインフード活用例 ・地域包括ケアシステムの構築に向けて配食事業者に期待される役割	井内 澄子
ノロウィルス・インフルエンザ感染症対策 平成30年9月7日 主催：神奈川高齢者福祉施設協議会	感染の経緯・対策	足立 翔平

身体拘束廃止のリスクマネジメントセミナー 平成30年11月9日 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社		人見 伸吾
平成30年度食生活支援担当者等研修会および特定給食施設種別講習会 平成30年12月13日 主催：厚木保健福祉事務所 大和センター 保健福祉課	高齢者の便秘において食生活や食事提供で配慮すべきこと	井内 澄子
ユニットリーダー研修 平成31年1月24日～25日 平成31年1月12日～15日 主催：全国個室ユニット型施設推進協議会	ユニットケアを行う目的・意義 実地研修を行い、その施設の理念などを学ぶ。	鈴木 慶太

イ 行事企画

平成 30 年度目標	・企画書の早めの提出を心掛けていきます。 ・今年度より他職種が委員として参加するため、伝達が円滑に進むようにしていきます。
取り組み評価	・年間行事をベースに、ご利用者に季節を感じていただけるような行事を企画できました。
反省点と要因	・委員会の日にシフトを合わせることが出来ず委員会当日に職員が集まらなかったため会議を開催することが出来ない月が数回ありました。それにより喫茶等の企画が遅れ企画書での他部署への伝達が遅れてしまいました。
次年度課題	・夏祭りやバザーも中心となり、ご利用者の楽しさを提供していきます。

ウ ボランティア活動

傾聴ボランティア	
介護相談員	年 9 回
園芸ボランティア	月 1 回
庭園清掃	月 1 回
ウクレレボラ	4 月 22 日 ウクレレボランティア
オカリナボラ	4 月 26 日 オカリナボランティア
ハープボラ	5 月 26 日 大和市少年消防団
ゴスペルボラ	5 月 27 日 ウクレレボランティア
ハープボラ	5 月 29 日 オカリナボランティア
大和市少年消防団	6 月 9 日 ハープボランティア
お花倶楽部	6 月 17 日 ウクレレボランティア
習字倶楽部	6 月 24 日 ゴスペルボランティア
	7 月 22 日 ウクレレボランティア
	9 月 9 日 ハープボランティア
	9 月 16 日 御神輿
	9 月 30 日 ウクレレボランティア
	1 月 3 日 獅子舞

4 職員関係

(1) 職種別配置構成

平成31年3月31日現在

区 分		常 勤	非 常 勤	計
施 設 長		1		1
総 務 課		3		3
介 護 課		37	45	82
医 務 課	看護師等	5	3	5
	嘱託医師		5	5
栄 養 課	管理栄養士	1		1
	調理員			
相 談 課	介護支援専門員	4		4
	機能訓練指導員	1		1
	相談員	3		3
計		55	50	105

*総務課 非常勤 管理職者、清掃ワーカーを含む

(2) 資格取得構成

平成31年3月31日現在

区 分	常 勤		非 常 勤		計
	男	女	男	女	
介護福祉士	17	8	4	10	39
初任者資格	3	3		4	10
実務者研修資格	1	1	1		3
医師及び歯科医師			3	1	4
看護師		4		1	5
准看護師		2		2	3
社会福祉士	1				1
社会福祉主事任用資格	5				5
介護支援専門員	3	1		3	7
管理栄養士	1	1			2
理学療法士		1			1

（３）実習・見学・講師派遣関係

<見学>

*以下の団体の見学の受け入れを行った。

依頼先	月日	見学目的	参加者
大和市消防署	6	少年消防団施設見学	50名
大和東小学校	12月11日	福祉体験	82名
日本国際協力センター	9月	福祉就労見学	13名
日本国際協力センター	1月	福祉就労見学	10名

<講師・委員派遣>

*以下の団体に職員を講師・委員して派遣した。

依頼団体	月日	内容及び会場	派遣者名
大和市社会福祉協議会	3月	介護の基礎講座	施設長
柏木学園	11月	初任者資格	施設長
大和商業高校	12月	初任者資格	施設長
柏木学園	2月	初任者資格	人見相談員

<実習>

*以下の機関の実習を受け入れた。

実習機関	実習時期及び延人数	実習資格
神奈川県社会福祉協議会	5日間1名	教員実習
かながわ精神障害者事業者の会	2日×2名	就労支援
かながわ精神障害者事業者の会	2日×2名	就労支援
大和商業高等学校	2日間2名×2	初任者資格